

新エネルギー導入セミナー

県・N E D O
バイオガス 大隅半島に期待大
燃 料 化

県と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)九州支部が主催する、20年度「新エネルギー導入セミナー」が9日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれ、自治体や業界関係者約120人が出席し、新エネルギー導入に向けた支援制度などについて学んだ。

セミナーでは、垂水市で豚ふんを利用したバイオガス供給プロジェクトへの期待の高さを話した。そのほか、県企画部地



120人の自治体・業界関係者が参加したセミナーは鹿児島市のかごしま県民交流センターで

オガス燃料化実証事業に携わっている(株)日本総合研究所の赤石和幸氏が、「新エネルギーのビジネスの可能性」と題して講演を行い、バイオ燃料による事業化のポイントや実験プラントの紹介があり、大隅半島でのバイオガス供給プロジェクトへの期待の高さを話した。そのほか、県企画部地

域政策課の森山健二資源対策監が、県内で導入されている太陽光発電や風力発電などの現状を報告。九州経済産業局資源エネルギー環境部の松下幸二郎氏や、NEDO九州支部事業管理部の吉武正則主幹からは、新エネルギーの導入支援策制度について詳しく説明があった。

また、富士エネルギー(株)(鹿児島市)の白木宏任氏は、「養豚場における太陽熱利用について」をテーマに、太陽熱利用の導入事例や成果、課題などを紹介した。

10日は、垂水市のバイオガスを取り出す施設の視察などが行われた。